

教育センター通信

第7号(通算123号)

令和6年11月28日

三条市教育委員会

教育センター発行

ほ
ど
火床の火の心を紡ぐ

小中一貫教育

トップページ



令和6年10月30日(水)：一ノ木戸ボブラ学園

第2回学園運営協議会「子どもと共に語る会」

あいさつ運動の進化について

小学5・6年生と中学1・2・3年生が参加

「保護者の思いに寄り添いながら」

学校教育課 指導主事 田辺 俊勝

「この子が生まれたときは、一生笑えないと思ったが、今は、この子がいるから毎日笑えている。」これは、特別支援学校小学部6年生を担当したときの卒業式後にダウン症の児童の保護者が話された言葉です。この言葉を聞いたときに、改めて保護者が抱える葛藤や不安、喜び等を感じ、保護者の思いに寄り添いながら指導・支援していく大切さや必要性を強く考えさせられました。

文部科学省は、保護者が子どもの障がいに関心し、受容に至るまでには、①「疑念・混乱」②「ショックと安堵」③「努力・挑戦」④「障がいの受容」と段階を経ていく傾向があると示しています。そして、「子どもの状態を正面から受け入れ、目の前の課題に背伸びして取り組むのではなく、将来を見通して現実的な対処への取組を始めていくことが、子どもに良い影響を与えることにつながる」とも述べています。

子どもの障がいを受容することは、保護者にとって簡単なことではありません。だからこそ、支援者は保護者の話をよく聞き、葛藤や困惑する気持ちを受け止めたり、考えを理解したり、ときには助言したりすることを通して、保護者が少しずつでも前を向いていけるような支援をする必要があると思います。何よりも、支援者の立場で決め付けることなく、保護者の思いに寄り添いながら、支援していくことが大切だと思っています。

現在、令和7年度に向けた就学相談が佳境に入り、子どもたちの就学先について、本人・保護者の意見を尊重しながら検討を進めています。今後も、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級のそれぞれの学びの場において、子どもが持てる力を十分に発揮し、学習活動に参加している実感や達成感を得ながら、充実した時間を過ごしていけるように保護者との連携をお願いいたします。

学園紹介

三条嵐南学園

10月22日(火)～25日(金)に、三条嵐南学園あいさつ運動を行いました。

三条嵐南学園では、あいさつが飛び交う温かい学園の雰囲気になることを目指して、6月から月に1回あいさつ運動を地域とともにを行っています。10月1日(火)に、三条嵐南学園あいさつ運動打合せ会を開催し、児童生徒が活動内容を確認しました。そして、昼の放送で小・中のリーダーから、あいさつ運動の連絡とともに元気なあいさつをしていこうと呼び掛けがありました。あいさつ運動をきっかけとして、登校時を中心に小中学生の元気なあいさつの声が響き、続くことを願っています。



学園あいさつ運動打合せ（多目的ホール）



学園あいさつ運動（児童生徒玄関前）

一ノ木戸ポプラ学園

一ノ木戸ポプラ学園では、様々な場面で小学生と中学生による交流・協働活動を行い、社会性の育成を進めています。

9月9日(月)の中学校体育祭の前に、小学生から体育祭への激励メッセージが送られました。また、9月27日(金)に小中交流リトルティーチャー活動で、中学2年生が小学1年生と一緒に、朝顔のつるでリースづくりを行いました。さらに、10月3日(木)には小学6年生の部活動体験を行いました。中学生は、先輩として小学生にやさしく教え、一緒に楽しく活動していました。どの活動でも、小中学生の笑顔があふれる様子から関係性の良さが伺えました。今後も、自己有用感を高め、社会性の育成が図られるように取り組んでいきます。



体育祭 激励メッセージ



朝顔リースづくり交流



6年生部活動体験

した達の郷学園

2学期始めのあいさつ運動に併せて、「いつか、あんな先輩になりたいな！」そんな気持ちを育もうと、下田中学校の生徒リーダーが、卒業した5つの母校をそれぞれ訪問しました。あいさつ運動参加後は、小学校の教室を訪ねて、後輩と触れ合い、憧れ意識の醸成を図りました。

10月29日(火)に、中学校区の6年生が集まり、下田中1年生と「絆スクール集会」を行いました。「心の絆を深め、社会性を育成し、いじめをしない、させない、見逃さない心を育む」ことを目的として行いました。「安心して過ごせる学校づくり～いごこちのよい人間関係をつくるコツ～」というテーマで栃尾南小学校教頭の岡田順子様から講演していただき、「絆」を深め合いました。



学園あいさつ運動(9/4) 森町小



『絆』スクール集会(10/29) 下田中体育館

学級づくり研修会(安全・安心な学級づくりを)

今年度、新潟大学附属長岡小学校教頭の畠山明大様を講師に招き、標記研修会を3回に渡り開催しました。各回のテーマは次のとおりです。

- 第1回(6月)「いじめ・不登校には理由(わけ)がある」～学級づくりを左右する先生の『考え方』～
- 第2回(8月)「クラスがまとまるには理由(わけ)がある」～なぜあの先生のクラスは子どもたちが輝くのか～
- 第3回(10月)「学力が上がるのには理由(わけ)がある」～学級づくりと学力をつなぐもの～

「子どもはどんな教師にSOSを出しやすいのか」「授業の中でどのように安心感を築いていくのか」「児童理解は『あの子を変えるため』ではなく『変わりたいと思わせるため』のもの」など、教師として子どもとの向き合い方を学ばせていただき、明日からの指導支援に生かせる研修となりました。

参加者からは、「学級経営について重要なことを実践や参加者とのコミュニケーションを通して具体的に学ぶことができました。明日から笑顔で子どもたちと向き合えそうです」「授業を支えるのは学級経営だということを改めて確認しました」「指導技術だけでなく、教師のマインド(軸足をどこに置か)というお話にハッとさせられました」「わかる人、できる人が活躍する授業から、困っている人を理解し合い、みんなで学んでいく授業づくりをしていきたいと思いました」など、多くの学びを得た感想が寄せられました。



講師：附属長岡小
教頭 畠山明大様



第3回学級づくり研修10/29

なるほどそうか！ものづくりって楽しいな！ 科学・模型工作教室

科学教育センターでは、三条市科学教育推進事業の一つとして「科学・模型工作教室」を開催しています。科学工作や模型工作活動を通して、ものづくりの感性を育てることが主なねらいです。対象児童は5、6年生で、今年度は21名が参加登録をしています。

活動は6月の「3D ミラーボックス」から始まり、7月「光る星座盤」、8月「太陽光発電の電気自動車」、9月「錯覚を楽しむおもちゃ」を作りました。11月は「レインボーミラー」、そして、12月は共同制作の「ピタゴラススイッチ」を作る予定です。



【完成した電気自動車】

子どもたちが安全に活動できるように、毎年、市内の先生方に活動支援スタッフとしての参加を呼びかけています。今年度は、延べ59名の先生から登録していただきました。子どもたちの自主性を大切にされた適切な支援のお陰で、毎回、完成度と満足度の高い作品ができ上がります。参加された先生方の感想を紹介します。

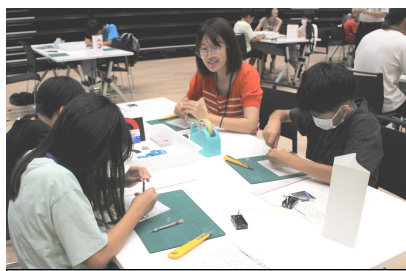
- ・日常の現象や作っている工作の原理などを知ることによって新しい発見もあり、自分自身の勉強にもなっています。そのことを日々の授業にも生かしています。
- ・授業で理科を教えますが、授業以外でも科学教育を推進したいと考えていて、支援スタッフに登録しています。学校では見られない子どもたちの様子や表情も見ることができて、自分自身の学びにもなっています。
- ・子どもたちとの活動はもちろん楽しいですし、他校の先生方と知り合いになるのもうれしいです。

小学生では難しいハンダ付けなどの作業がある場合は、県立新潟県央工業高等学校の機械工作部の生徒さんからも支援スタッフとして参加してもらっています。今年度は3つの教室に14名が参加してくれました。手際よく作業する高校生に、はにかみながらもうれしそうにして、子どもたちは交流を楽しんでいました。



【大活躍の県央工業生】

どの教室も楽しく活動していますが、今回は7月20日（土）に実施した「光る星座盤」の様子を紹介します。アクリル板にピンバイスという小



【光る星座盤づくりの様子】

さなドリルで夏の星座（はくちょう座、こと座、わし座）の形に穴を掘ります。天の川を表現するために小さな穴や傷も付けていきます。その穴や傷に高輝度青色LEDの光を当てると星座や天の川が光る仕組みです。

きれいな星座盤を完成させようと子どもたちは一つ一つ丁寧に作業していました。根気のいる活動でしたが、暗闇の中で青く光る星座盤に子どもたちは大歓声を上げていました。満足そうな子どもたちを見て、支援者一同もうれしくなり笑顔いっぱいの会場になりました。

【参加した児童の感想】

- ・星や宇宙が好きだから楽しかったし、上手にできてよかったです。
- ・一つ一つ星の穴を開けていくことが大変でした。天の川が特に大変でしたが、完成したときはすごくきれいでよかったです。
- ・アクリル板に穴を開けるときがとても楽しかったです。特に楽しかったのは、天の川をつくることです。ベガ、アルタイル、デネブの近くには、天の川があることが分かりました。



【暗闇で青く光る星座盤】